



# ボタニカルアートの構図

# Josef Albersの授業

- 絵画制作技術でなく、物事に向かうための態度を示す。
- 手を動かす試行錯誤が最重要。
- 上手いことが重要ではない。経験を通じて学んだことが重要。
- 言葉で多く教わるほど学べることは少ない。

## Josef Albersの授業:「目を開く」to make eyes open

- ・知覚は曖昧である。そのため、錯覚、偏見、知識、習慣により物事を正確に把握できていない
- ・過去の例や技法を説く美術教育は「創造的に制作する」人を育てるものではない。
- ・実習により過去を見直し、探索することを求めた。実習の過程を指導の中心に置く。
- ・多く教わるほど学べることが少なくなる。

目を開き知覚の曖昧さを減らし

- ・色を使いこなせ。
- ・色のマジック。色は役者。
- ・色の錯覚を自ら作り出す。
- ・平面を立体に見せる

## ボタニカルアートの構図

- 構図の必要性
  - 自分の世界観を伝えるための視覚表現の方程式
  - 構図が出来ていない絵はメモみたいなもの
- 構図の基本タイプ
  - 構図作りの2パターン、トリミング
  - 基本型: 傾斜、三角構図、S字、放射、対角構図、稲妻
- 構図要素の原則
  - 主役・脇役、導線、バランス
  - 対比: 補色、明暗、曲線と直線、質感、コントラスト
  - 画面構成: 群化、視線、余白、モチーフを見る角度、重心

### 構図の必要性

- 構図の必要性
  - 自分の世界観を伝えるための視覚表現の方程式
  - 自分が伝えたかった意図・コト・世界が、見る側に受けとめられ、共感される。
  - 構図が出来ていない絵はメモみたいなもの
  - ・スケッチは完成した絵ではない。
  - ・自分の感情を通して解釈し、構図を使って自分の感じた世界にデフォルメする。
  - ・我々の植物画ではスケッチと併行して構図作りを行っている。

### 構図作りの2パターン

- 実モチーフを描いて構図にデフォルメしていく
  - ・実モチーフを写生しながら構成していく。
  - ・デフォルメ(deformation): 強調、省略、移動。
  - ・トリミングや陰影もデフォルメであり、構図要素。
  - ・デフォルメにより意図が加わり、自分の絵になる。
- はじめに構想を決めモチーフをイメージにあてはめる
  - ・実景にとらわれず、配置を自由に展開する。
  - ・静物画は配置を自由に変え、構成の面白さを表現できる。
  - ・最も伝統的な画法。

### 構図要素の原則: 傾き、傾斜

- はじめに構想あり
- 構図タイプ: 斜線、対角線構図
  - 斜線は画面に動きをつくり出す。
- 構図要素
  - ・主役、脇役: 異なる色の重なり部
  - ・導線: 葉先、穂先の方向
  - ・対比: 弱い補色対比、直線と曲線の対比
  - ・画面構成: 対角線・X構図
  - 配色: 低トーン幅
  - 視線: 回転の流れ
  - 余白:
  - 立体感: 重なり部の陰



### 構図の基本タイプ: 三角構図は安定したイメージ

- はじめに構想あり
- 構図タイプ: 不等辺三角
- 構図要素
  - ・主役: リンゴの窪み部分の赤緑
  - ・対比: 質感、補色
  - ・画面構成:
    - ・視線仰角: リンゴへ見下ろす視線が高め
    - ・群化: マスカットとリンゴの群化
    - ・対比: リンゴとマスカットの補色対比
    - ・余白: マスカットとリンゴの間の余白
    - ・視線誘導: リンゴの傾き、果梗の向き
    - ・奥行き出し: 陰、影、前後の色価の変化
    - ・バランス: 安定感



### 構図の基本タイプ: 中空の三角構図

- はじめに構想あり
- 構図タイプ: 中空の三角形
  - 中空にすると安定感を活かしつつ三角の重鈍感が減り、軽快さが出る。
- 構図要素
  - ・導線、視線誘導: 傾き、茎の向きと曲がり、サイン
  - ・画面構成:
    - ・余白: 三角形の中心部の余白
    - ・奥行き: 陰、影



### 構図の基本タイプ: 逆三角構図

- 実モチーフを写生しながら構成
- 構図タイプ: 不等辺逆三角形
  - 三角構図の重厚感はなく、緊張感と安定感がある。設け位置部分を細くすると動きが軽くなる。
- 構図要素
  - ・主役: 高コントラストの葉の重なり部
  - ・対比: 補色対比
  - ・画面構成:
    - 視線: 葉先や花弁先の向き
    - 余白: 4隅の三角余白形状の違い。
    - モチーフを見る角度: やや上から
    - 奥行き: 葉の重なり部分の陰、前後の色の彩度の差。



## 構図の基本タイプ:逆三角構図

- 実モチーフを写生しながら構成
- 構図タイプ:逆二等辺三角形  
三角構図の重厚感はなく、軽い動きがある。

### ■ 構図要素

- ・主役:脇役:
- ・導線:傾き、茎の曲線、葉先の向き
- ・対比:花弁と葉の質感
- ・画面構成:
- 配色:基本色は2つ、茎への赤系の散りばめ
- 群化:2群の葉
- 視線:左下への流れ
- 余白:下の余白がツルの垂れ下がりを感じさせる。
- ・奥行き:陰



## 構図の基本タイプ:菱形構図

- 実モチーフを写生しながら構成
- 構図タイプ:三角構図の変形である菱形構図  
下の先端が細いほど安定して軽快な動きがある。  
ヤジロベエの左右バランスをとりつつ、わずかに  
バランスを崩して緊張感を感じさせるワザもあり。

### ■ 構図要素

- ・主役:下から1/3の位置の花
- ・導線:傾き、茎の曲線、葉先の向き
- ・対比:上下の明暗、補色対比(紫、花芯の黄)
- ・画面構成:
- 配色:基本色は2つ
- 群化:上下2群の花
- 視線:茎に沿った上への流れ
- 余白:四隅の余白形状の違いが動きを感じさせる。
- ・奥行き:陰



## 構図の基本タイプ:放射構図

- 実モチーフを写生しながら構成
- 構図タイプ:放射構図、逆三角形。  
1点からの放射により統一感が出る。

### ■ 構図要素

- ・主役:脇役:
- ・導線:傾き、茎の曲線、先端の向き
- ・対比:葉先の枯れ色と緑の補色対比
- ・画面構成:
- 配色:基本色は2つ、葉先へ赤系の散りばめ
- 群化:3ヶ所の花
- 視線:左上への流れ
- 余白:4隅の余白形状・大きさの違い。
- ・奥行き:重なり部の陰



## 構図の基本タイプ:X構図、対角線構図

- はじめに構想あり
- 構図タイプ:対角線  
安定感が高い。斜線の中で最も落ち着く角度。

### ■ 構図要素

- ・主役:中心部
- ・導線:傾き、茎の曲線、先端の向き
- ・対比:補色対比
- ・画面構成:
- 配色:基本色は2つ、茎への赤系の散りばめ
- 視線:回転の流れ
- 余白:左右対称形の余白
- ・奥行き:陰



## 構図の基本タイプ:稲妻構図、ジグザグ型

- はじめに構想あり
- 構図タイプ:ジグザグ型  
斜線の傾きを交互にくりかえす。  
左右反対方向の斜線が上方への伸びを表現。

### ■ 構図要素

- ・主役:
- ・導線:傾き、茎の向き
- ・対比:花弁と幹の質感、ピンクを引き立てる幹のグレー
- ・画面構成:
- 配色:幹と茎の色がピンクに影響しないように配慮
- 視線:右上への流れ
- 余白:3つの余白が枝の伸びを表現。
- ・奥行き:陰



## 構図の基本タイプ:直線と曲線、門型

- はじめに構想あり
- 構図タイプ:直線と曲線の組合せ、門型  
複数の垂直線は緊張感を出す、少し曲線化することで  
リズム感が増す。横線の曲線は穏やかさを出している。  
門型の構図では、門の中心部へ視線誘導しやすい。

### ■ 構図要素

- ・主役:上から1/3の花と濃い葉
- ・導線:下方への垂れ下がりの流れ、茎の曲線
- ・対比:黄色と紫の補色対比
- ・画面構成:
- 配色:類似色
- 群化:上部と地面
- 視線:下への流れ
- 余白:下の余白が垂れ下がりを感じさせる。
- ・奥行き:陰、種の影



## 構図の基本タイプ:曲線と直線

- はじめに構想あり
- 構図タイプ:C型曲線と直線  
曲線は柔らかな動きを感じさせる。  
直線は幾何学的で理性的。植物画らしさを感じさせる。

### ■ 構図要素

- ・主役:脇役:
- ・導線:傾き、茎の曲線、葉先端の向き
- ・対比:曲線直線対比
- ・画面構成:
- 配色:
- 視線:茎の流れ
- 余白:四隅と中央の余白の果たす役割が大きい
- ・奥行き:陰



## 構図要素の原則:視線

- はじめに構想あり
- 構図タイプ:視線、三角形、S字型  
葉色の重心が低く安定。  
花の茎の緩やかなS字が動きを出す。  
二輪の花の互いの視線で微妙な表情生まれる。  
表情:開け、共感を求める、反発したり無視したり、  
ドラマを演出できる。

### ■ 構図要素

- ・主役:花芯
- ・導線:花の視線
- ・対比:補色対比
- ・画面構成:花と葉の群化
- 配色:基本色は2色
- 視線:花弁の先の向きを伝える回転の流れ
- 余白:花の視線の向こうには余白を経て蕾がある。
- ・奥行き:陰

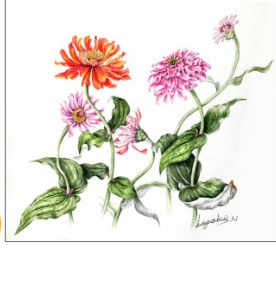


## 構図要素の原則:見返り美人、S字型

- はじめに構想あり
- 構図タイプ:見返り美人、S字型  
身体の向きと顔の視線がズレると、複雑で微妙な動きを表現できる。  
体の向きと視線が一致すると堅く重く面白くない。  
5つの花の複合視線は、複雑なドラマ表現を感じる。  
花の茎の緩やかなS字が絵に動きを出す。  
緩やかなS字型により柔らかな動きを表現する。

### ■ 構図要素

- ・主役:脇役:色と花芯
- ・導線:花の視線、茎と葉先の方
- ・対比:補色対比
- ・画面構成:花大小、色配置
- 配色:赤を主役に
- 視線:回転の流れ
- 余白:花の視線の向かう先は上部の余白



## 構図要素の原則:群化、リズム感

- はじめに構想あり
- 構図タイプ:群化、リズム感  
形同士を近づけると群になる。  
更に、重ねると強い結びつきになる。  
実の同じ形を繰り返すとリズム効果が出る。  
リズムは安心感をつくる。

### ■ 構図要素

- ・主役:一番目立つハイライト部分
- ・導線:果柄の先の方向、サインの配置
- ・対比:緑と赤の補色対比
- ・画面構成:4対7の群化
- 配色:赤を主に、果肉の透け感、少ない緑
- 視線:果柄の回転の流れ
- 余白:群間の余白がドラマを感じさせる
- 立体感:陰色、ハイライト

